

お子さんやお孫さんに ワクチンを勧める前に

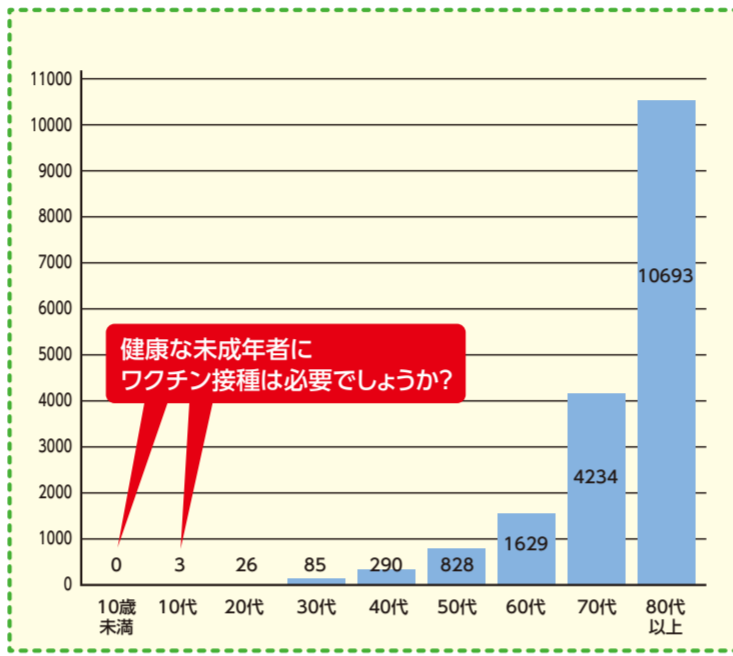
来年2月から12歳未満の子どもの接種が始まるかもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

厚労省ホームページから「未成年接種」について考える

未成年者のワクチン接種後 重篤者296人・後遺症6人・死亡者5人

未成年者（0歳～20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか。厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染死はこれまでに3人いるが、その内の2人は重篤の基礎疾患があったことが分かっている。そしてもう一人は「コロナ感染ではなく事故で亡くなる」、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「事故死ではなく「コロナ感染死」扱いになったものだ（東京郵報発表）。

「健康な未成年者にワクチン接種は必要でしょうか？」
これまで新たな変異株が出る
また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに**1408人**



※新型コロナウイルス感染症の国内発生動向（令和3年11月30日24時時点）

しかしその目的のために、子どもや若者達に自らの命や健康を賭けさせること自体がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府泉大津市の南出市長は、大阪府立大学の井上正康名誉教授（分子病態学）から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

この状況を招いた最大の要因は、国や自治体が躍起になって広めた「周りの人のために接種すべき」というスローガンではないだろうか。「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」等のCMをよみ目にした。この接種推進CMによって、たとえ自分自身に必要ななくても、子どもや若者も「家族や会社や社会のために接種すべき」という考え方が広く浸透し、同調圧力が生まれたと考えられる。

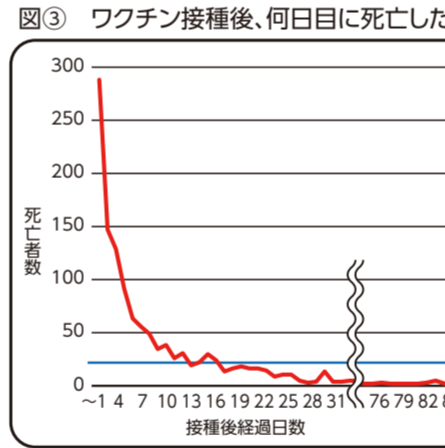
ワクチン接種と1300人超の死亡は 本当に関係ない？

未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、11月26日時点で**1387人**（ファイザー製1331人・モデルナ製56人）に達している。しかしワクチン接種会場で突然死した場合も含めて、厚労省は一人として因果関係を認めない。つまり、厚労省のホームページに記されている通り「接種が原因で多くの方が亡くなった」という

「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載されている。ワクチンの安全性を確保する手続きを特別承認で省略してしまったため、厚労省も今後数年に渡って何が起きるか分からないまま接種を押し進めているのが現状だ。

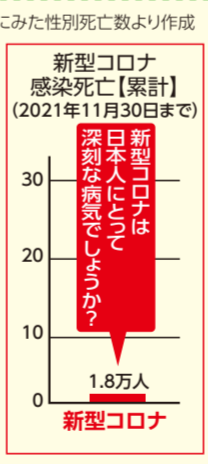
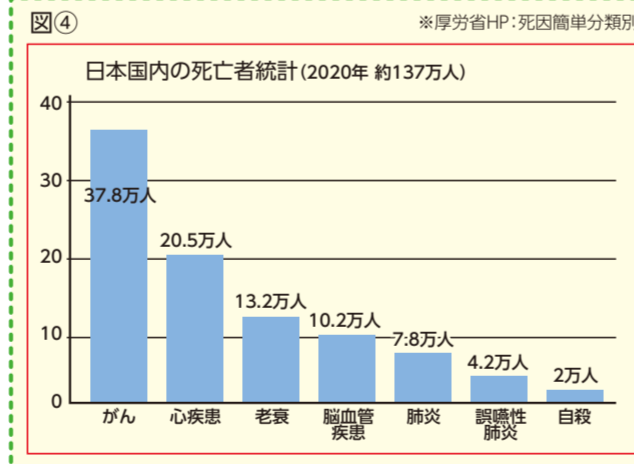


図② ワクチンの接種後死亡者数（100万回接種した場合）
※厚生労働省HP：令和元年シーズンのインフルエンザワクチン接種後の副反応疑いの報告について（接種回数：56,496,152回、死亡6人）
新型コロナウイルスにおける副反応疑い報告の状況について（ファイザー・モデルナ推定接種回数：194,827,854回、死者1368人/11月14日時点）



図③ ワクチン接種後、何日目に死亡したか
厚生労働省HP：新型コロナウイルスワクチン接種後の死亡として報告された事例の概要（令和3年11月26日）より作成
接種当日（0日）の死亡者数は、接種後の経過時間が短いため1日に含めて集計

- POINT!**
- 厚労省HPに掲載されている**コロナワクチン3つの事実**
 - インフルエンザワクチンと比べて、**接種後死亡が圧倒的に多い。**
 - 接種した翌日までに**死亡した人が圧倒的に多い。**
 - 接種後死亡者の死因は、**血栓症や循環器系障害が圧倒的に多い。**



「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載されている。ワクチンの安全性を確保する手続きを特別承認で省略してしまったため、厚労省も今後数年に渡って何が起きるか分からないまま接種を押し進めているのが現状だ。

「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載されている。ワクチンの安全性を確保する手続きを特別承認で省略してしまったため、厚労省も今後数年に渡って何が起きるか分からないまま接種を押し進めているのが現状だ。

「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載されている。ワクチンの安全性を確保する手続きを特別承認で省略してしまったため、厚労省も今後数年に渡って何が起きるか分からないまま接種を押し進めているのが現状だ。

ワクチンの安全性は 2023年5月まで不明

厚労省はホームページに「ワクチンが不正出血や月経不順を起すことはありません。」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所（NIH）が9月末から調査を開始している。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の変化など、様々な専門家が「子どもも重症化する可能性がある」と発言してきたが、実際は感染してもほとんどが無症状か軽症で済んでいる。未成年者にワクチンが必要ないことは厚労省のデータが証明していると言える。ところが未成年者がそもそも必要ないはずのワクチンを行うことにより、多くの重篤者（命の危険が迫っている患者や死亡者）を出してしまっている。10月30日には13歳の少年がファイザー製ワクチンを接種した4時間後に入浴、浴槽内で水没しているところを発見されている。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったり、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起きている。その理由は、今回のワクチンが人体に用いているのが初めてであり、有効性も安全性も2023年5月まで不明（ファイザー）の「臨床試験中の実験試験」だからだ。それは人体への長期的な影響が誰にも予測できないことを意味する。厚労省は「審議結果報告書」の中で

「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載されている。ワクチンの安全性を確保する手続きを特別承認で省略してしまったため、厚労省も今後数年に渡って何が起きるか分からないまま接種を押し進めているのが現状だ。

「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載されている。ワクチンの安全性を確保する手続きを特別承認で省略してしまったため、厚労省も今後数年に渡って何が起きるか分からないまま接種を押し進めているのが現状だ。

おすすめ最新書籍（参考文献）

- 「ゴーマニズム宣言SPECIAL コロナ論4」（扶桑社）著書：小林よしのり（2021年11月18日）
- 「コロナとワクチンの全貌」（小学館）著書：小林よしのり/井上正康（2021年9月30日）
- 「新型コロナ騒動の正しい終わらせ方」（方丈社）著書：井上正康/松田学（2021年12月1日）

「簡単!10分で分かる
新型コロナウイルスの危険性」
井上正康先生講演会動画

2021年最新版
「新型コロナウイルスとワクチンについて」
特別講座 井上正康先生

ここでは、ワクチンの「危険性」の一部を紹介しました。
掲載できなかった、その他の詳しい情報は、
下記ホームページをご覧ください。

皆様からのご支援で活動しております。

右QRコードからもご覧頂けます。
<https://jcovid.net/>

メールまたは上記QRコードよりご意見をお寄せください
ご意見・ご感想をお聞かせください。 Eメール mail@dbank.jp